



Real-Time Monitoring の設定

この章は、Cisco CallManager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の設定に関する次の項で構成されています。

- [Real-Time Monitoring Tool \(RTMT\) のインストール \(P.7-2\)](#)
- [RTMT のアップグレード \(P.7-3\)](#)
- [RTMT のアンインストール \(P.7-4\)](#)
- [RTMT の使用 \(P.7-4\)](#)
- [電子メール通知の設定 \(P.7-6\)](#)
- [構成プロファイルの操作 \(P.7-6\)](#)
- [事前定義オブジェクトの操作 \(P.7-9\)](#)
- [デバイスの操作 \(P.7-13\)](#)
- [CTI アプリケーション、デバイス、および回線の操作 \(P.7-17\)](#)
- [参考情報 \(P.7-23\)](#)



ヒント

アラート、パフォーマンス モニタリング、トレース収集、Syslog Viewer の設定については、[P.7-23](#) の「参考情報」を参照してください。

Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のインストール

RTMT は、800*600 以上の解像度で動作し、Windows 98、Windows XP、Windows 2000、または Red Hat Linux with KDE や Gnome クライアントにインストールできます。



(注) RTMT が、Microsoft Windows で稼働する Cisco CallManager サーバと連携するようにすでにインストールされている場合、Cisco CallManager 5.0 対応の RTMT をローカル コンピュータの別のフォルダにインストールする必要があります。



ヒント

Cisco CallManager がインストールされているサーバには RTMT をインストールしないことを強くお勧めします。Cisco CallManager がインストールされているサーバで RTMT を使用すると、コール処理が中断することがあります。

ツールをインストールするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Application > Plugins** の順に選択します。
- ステップ 2** **Find** ボタンをクリックします。
- ステップ 3** Cisco CallManager Real-Time Monitoring Tool の **Download** リンクをクリックします。
- ステップ 4** 実行ファイルを適切な場所にダウンロードします。
- ステップ 5** デスクトップに表示された RTMT アイコンをダブルクリックするか、ファイルのダウンロード先のディレクトリから RTMT インストール ファイルを実行します。
抽出プロセスが開始します。
- ステップ 6** RTMT Welcome ウィンドウで **Next** をクリックします。
- ステップ 7** ライセンス契約書に同意するには、**Yes** をクリックします。
- ステップ 8** RTMT のインストール先を選択します。デフォルト以外の場所にインストールする場合は、**Browse** をクリックし、別の場所に移動します。**Next** をクリックします。
- ステップ 9** インストールを開始するには、**Next** をクリックします。
Setup Status ウィンドウが表示されます。Cancel をクリックしないでください。
- ステップ 10** インストールを完了するには、**Finish** をクリックします。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

RTMT のアップグレード

ツール (RTMT) を使用すると、ユーザプリファレンスやダウンロードされたモジュールの jar ファイルは、クライアント マシンにローカルに保存されます。システムはプロファイルを Cisco CallManager データベースに保存するので、RTMT のアップグレード後もこれらの項目に RTMT でアクセスできます。



ヒント

互換性を確保するため、クラスタ内のすべてのサーバ上で Cisco CallManager をアップグレードした後に RTMT をアップグレードすることをお勧めします。

RTMT をアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Application > Plugins** の順に選択します。
- ステップ 2** **Find** ボタンをクリックします。
- ステップ 3** Microsoft Windows オペレーティング システムを実行しているコンピュータに RTMT ツールをインストールする場合は、Cisco CallManager Real-Time Monitoring Tool-Windows の **Download** リンクをクリックします。Linux オペレーティング システムを実行しているコンピュータに RTMT ツールをインストールする場合は、Cisco CallManager Real-Time Monitoring Tool-Linux の **Download** リンクをクリックします。
- ステップ 4** 実行ファイルを適切な場所にダウンロードします。
- ステップ 5** デスクトップに表示された RTMT アイコンをダブルクリックするか、ファイルのダウンロード先のディレクトリから RTMT インストール ファイルを実行します。

抽出プロセスが開始します。
- ステップ 6** RTMT Welcome ウィンドウで **Next** をクリックします。
- ステップ 7** アップグレードの場合はインストール先を変更できないので、**Next** をクリックします。

Setup Status ウィンドウが表示されます。Cancel をクリックしないでください。
- ステップ 8** Maintenance Complete ウィンドウで **Finish** をクリックします。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

RTMT のアンインストール

Windows クライアントで RTMT をアンインストールするには、Control Panel の **Add/Remove Programs** を使用します (Start > Settings > Control Panel > Add/Remove Programs)。

KDE や Gnome クライアントを使用した Red Hat Linux で RTMT をアンインストールするには、タスクバーから **Start > Accessories > Uninstall Real-time Monitoring tool** の順に選択します。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

RTMT の使用

始める前に

RTMT を使用する前に、クラスタ内の各ノードで Cisco AMC Service をアクティブにする必要があります。Cisco CallManager Serviceability から **Tools > Service Activation** の順に選択し、**Cisco AMC Service** チェックボックスをオンにします。**Update** をクリックします。

手順

ステップ 1 プラグインをインストールした後、次のいずれかの操作を実行します。

- Windows デスクトップで、**Cisco CallManager Real-Time Monitoring Tool** アイコンをダブルクリックします。
- **Start > Programs > Cisco CallManager Serviceability > Real-Time Monitoring Tool > Real-Time Monitoring Tool** の順に選択します。

Real-Time Monitoring Tool Login ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Host IP Address フィールドに、ファースト ノードの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

ステップ 3 User Name フィールドに、CCMAdministrator アプリケーションのユーザ名を入力します。たとえば、このユーザのデフォルトのユーザ名は、**CCMAdministrator** です。

ステップ 4 Password フィールドに、CCMAdministrator アプリケーションのユーザ名に対応するユーザパスワードを入力します。たとえば、このユーザのデフォルトのユーザ名は、**ciscocisco** です。



(注) 認証に失敗した場合、またはサーバに到達できない場合は、サーバと認証の詳細を再入力するように求められます。また、**Cancel** ボタンをクリックして、アプリケーションを終了することもできます。認証に成功した場合は、RTMT により、ローカル キャッシュまたはリモート ノードからモニタリング モジュールが起動されます。リモート ノードは、バックエンドの Cisco CallManager バージョンと一致するモニタリング モジュールがローカル キャッシュに含まれていない場合に使用されます。

ステップ 5 アプリケーションがサーバのリッスンに使用するポートを入力します。デフォルト設定は 8443 です。

ステップ 6 **Secure Connection** チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 **OK** をクリックします。

ステップ 8 Yes をクリックして、証明書ストアを追加します。

ステップ 9 RTMT で実行できる操作については、次のリストを参照してください。

- 電子メール アラートのためのメール サーバを設定する場合は、[P.7-6](#) の「[電子メール通知の設定](#)」を参照してください。
- 構成プロファイルを作成する場合は、[P.7-6](#) の「[構成プロファイルの追加](#)」を参照してください。
- 事前定義オブジェクトをモニタする場合は、[P.7-9](#) の「[事前定義オブジェクトの操作](#)」を参照してください。
- デバイスを操作する場合は、[P.7-13](#) の「[デバイスの操作](#)」を参照してください。
- CTI アプリケーション、デバイス、および回線を操作する場合は、[P.7-17](#) の「[CTI アプリケーション、デバイス、および回線の操作](#)」を参照してください。
- アラートを操作する場合は、[P.8-1](#) の「[RTMT でのアラート設定](#)」を参照してください。
- パフォーマンス モニタリング オブジェクトを操作する場合は、[P.9-1](#) の「[パフォーマンス モニタリングの設定と使用](#)」を参照してください。
- トレースを収集して表示する場合は、[P.10-1](#) の「[RTMT のトレース収集とログ集中管理](#)」を参照してください。
- SysLog Viewer を使用する場合は、[P.11-1](#) の「[RTMT SysLog Viewer の使用](#)」を参照してください。
- RTMT のトレース設定値を設定する場合は、**Edit > Trace Setting** の順に選択します。適切なオプション ボタンをクリックします。
- ウィンドウの左側に表示される Quick Launch Channel ペインを非表示にするには、**Edit > Hide Quick Launch Channel** の順に選択します。
一度非表示にした Quick Launch Channel を表示するには、**Edit > Hide Quick Launch Channel** の順に選択します。
- 1 つのモニタリング ウィンドウを閉じるには、**Window > Close** の順に選択します。表示されているすべてのモニタリング ウィンドウを閉じるには、**Window > Close All Windows** の順に選択します。
- RTMT ウィンドウから Cisco CallManager Administration または Cisco CallManager Serviceability にアクセスするには、**Application > CCM Admin webpage** (または **CCM Serviceability webpage**) の順に選択します。
- RTMT から Serviceability Report Archive オプションにアクセスするには、**System > Report Archive** の順に選択します。Security Alert ウィンドウが表示されたら、**Yes** をクリックします。サーバの管理ユーザ名とパスワードを入力し、**OK** をクリックします。
- インストールされている RTMT のバージョンを確認するには、**Help > About** の順に選択します。バージョン情報がウィンドウに表示されます。情報を確認したら、**OK** をクリックします。
- RTMT のマニュアルにアクセスするには、**Help > Help Topics** (または **For this Window**) の順に選択します。RTMT または Cisco CallManager Serviceability の詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*』も参照してください。
- JVM 情報をモニタするには、**System > JVM Information** の順にクリックします。JAVA ヒープメモリの使用状況がウィンドウに表示されます。**OK** をクリックします。
- RTMT からログアウトするには、**System > Log Off** の順に選択します。この操作を実行すると、現在のユーザがログオフし、Real-Time Monitoring Tool Login ウィンドウが表示されます。
- アプリケーションを終了するには、**System > Exit** の順に選択します。この操作を実行すると、アプリケーションが終了します。

追加情報

[P.7-23](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

電子メール通知の設定

電子メール通知を設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Mail Server フィールドに、電子メールの受信者の情報を入力します。

ステップ 2 Port フィールドに、メール サーバのポート番号を入力します。

ステップ 3 **OK** をクリックします。

追加情報

[P.7-23 の「関連項目」](#) を参照してください。

構成プロファイルの操作

この項は、次の内容で構成されています。

- [デフォルトの構成プロファイルの使用 \(P.7-6\)](#)
- [構成プロファイルの追加 \(P.7-6\)](#)
- [プロファイルの復元 \(P.7-7\)](#)
- [構成プロファイルの削除 \(P.7-8\)](#)

デフォルトの構成プロファイルの使用

RTMT を初めてロードすると、CM-Default という名前のデフォルト設定が適用されます。RTMT を初めて使用すると、CM-Default プロファイルが使用され、モニタ ペインに要約ページが表示されます。CM-Default は、Cisco CallManager の全ノードにある登録済みの電話機をすべて動的にモニタします。クラスタに 5 つの Cisco CallManager 設定ノードがある場合、CM-Default は Cisco CallManager クラスタ内の各ノードの登録済み電話機すべて、進行中のコール、およびアクティブなゲートウェイポートとチャネルを表示します。

独自の構成プロファイルを作成する方法については、[P.7-6 の「構成プロファイルの追加」](#) を参照してください。

追加情報

[P.7-23 の「関連項目」](#) を参照してください。

構成プロファイルの追加

RTMT で複数のモニタリング ウィンドウ (CPU & Memory、SDL Queue、およびパフォーマンス カウンタなど) を開いた後、独自の構成プロファイルを作成すると、これらのウィンドウを個別に開かなくても 1 つの操作でこれらのモニタリング ウィンドウを復元できます。同じ RTMT セッションで複数の異なるプロファイルを切り替えたり、後続の RTMT セッションで同じプロファイルを使用したりすることもできます。

プロファイルを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **System > Profile** の順に選択します。

Preferences ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 **Save** をクリックします。

Save Current Configuration ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 Configuration name フィールドに、この構成プロファイルの名前を入力します。

ステップ 4 Configuration description フィールドに、この構成プロファイルの説明を入力します。



(注) 構成プロファイルの名前と説明は任意に入力できます。

システムにより新しい構成プロファイルが作成されます。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

プロファイルの復元

構成済みのプロファイルを復元するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **System > Profile** の順に選択します。

Preferences ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 復元するプロファイルをクリックします。

ステップ 3 **Restore** をクリックします。

復元された構成に対する、あらかじめ用意されている設定やパフォーマンス モニタリング カウンタのすべてのウィンドウが開きます。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

構成プロファイルの削除

構成済みのプロファイルを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **System > Profile** の順に選択します。

Preferences ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 削除するプロファイルをクリックします。

ステップ 3 **Delete** をクリックします。

ステップ 4 **Close** をクリックします。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

事前定義オブジェクトの操作

ツール (RTMT) には、システムの状況をモニタするデフォルトのモニタリング オブジェクトのセットが用意されています。デフォルト オブジェクトには、パフォーマンス カウンタや Cisco CallManager でサポートされているサービスについての重要なイベント ステータスが含まれています。

この項は、次の内容で構成されています。

- [事前定義オブジェクトの表示とモニタリング \(P.7-9\)](#)
- [デバイスの操作 \(P.7-13\)](#)
- [CTI アプリケーション、デバイス、および回線の操作 \(P.7-17\)](#)

事前定義オブジェクトの表示とモニタリング

カテゴリ、つまり事前定義のオブジェクトのモニタリング ペインには、事前定義のモニタリング オブジェクトのアクティビティが表示されます。カテゴリの情報を表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 カテゴリを表示またはモニタするには、次のいずれかの操作を実行します。

- Quick Launch Channel で **View** タブをクリックします。次に、Summary、Server、Call Process などのカテゴリをクリックします。カテゴリのアイコンが表示されている場合は、アイコンをクリックして、モニタする情報を表示します。
- 表示するカテゴリに応じて、[表 7-1](#) から次のいずれかのオプションを選択します。



表 7-1 カテゴリのメニューパス

カテゴリ	メニューパス	表示されるデータ
Summary	Monitor > Summary	メモリの使用状況、CPU の使用状況、登録済みの電話機、進行中のコール、アクティブなゲートウェイ ポートとチャネルを表示します。
Server	Monitor > Server > CPU Usage and Memory (または Process、Disk Usage、Critical Services)	<ul style="list-style-type: none"> • CPU Usage and Memory : メモリと CPU の使用状況を表示します。 • Process : プロセス名、プロセス ID (PID)、およびプロセス、常駐メモリと共有メモリ、Nice (レベル) によって使用される CPU とメモリの割合を表示します。 • Disk Usage : 各ホストの最大パーティションが使用しているディスク容量の割合を表示します。 • Critical Services : 特定のサーバのサービスを表示します。

表 7-1 カテゴリのメニューパス (続き)

カテゴリ	メニューパス	表示されるデータ
Call Process	Monitor > Call Process > Call Activity (または Gateway Activity、Trunk Activity、SDL Queue、SIP Activity)	<ul style="list-style-type: none"> • Call Activity : クラスタ内の各 Cisco CallManager サーバでのコールアクティビティを表示します。完了コール数、試行されたコール数、進行中のコールなどの項目が含まれます。 • Gateway Activity : Cisco CallManager クラスタでのゲートウェイアクティビティを表示します。アクティブポート、処理中のポート、完了コールなどの項目が含まれます。 • Trunk Activity : Cisco CallManager クラスタのトランクアクティビティを表示します。進行中のコールや完了コールなどの項目が含まれます。 • SDL Queue : SDL キュー情報を表示します。キューにある信号数や処理された信号数などの項目が含まれます。 • SIP Activity : クラスタ内の各 Cisco CallManager サーバの SIP アクティビティを表示します。要求の要約、応答の要約、応答されなかった受信コールの要約、応答されなかった発信コールの要約、発信要求の再試行、発信応答の再試行などの項目が含まれます。
Service	Monitor > Service > Cisco TFTP (または Heartbeat、Database Summary)	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco TFTP : クラスタ内の各 Cisco CallManager サーバの Cisco TFTP ステータスを表示します。TFTP 要求合計、検出された TFTP 要求合計、中止された TFTP 要求合計などの項目が含まれます。 • Heartbeat : Cisco CallManager、Cisco TFTP、Cisco CallManager Attendant Console サービスのハートビート情報を表示します。 • Database Summary : Cisco CallManager サーバ上のデータベースに関する要約情報を表示します。データベースのキューに登録された接続要求、メモリのキューに登録された接続要求、接続されたクライアントの合計数、およびキュー登録中にリセットされたデバイスの数などの項目が含まれます。

表 7-1 カテゴリのメニューパス (続き)

カテゴリ	メニューパス	表示されるデータ
Device	Monitor > Device Summary (または Phone Summary)	<p>Device Summary は、クラスタ内の各 Cisco CallManager サーバの情報として、登録済みの電話機数、登録済みのゲートウェイデバイス数、登録済みのメディアリソースデバイス数などを表示します。</p> <p>Device Search は、クラスタ名とデバイスタイプをツリー階層に表示し、電話機やデバイスに関する情報のクエリーを受け付けます。</p> <p>Phone Summary は、クラスタ内の各 Cisco CallManager サーバに関する情報として、登録済みの電話機数、登録済みの SIP 電話機数、登録済みの SCCP 電話機数、登録未完了の電話機数、失敗した登録試行数などを表示します。</p> <hr/> <p> ヒント Monitor > Device Summary または Monitor > Phone Summary の順に選択する代わりに、Device > Open Device Search の順に選択すると、クラスタ名とデバイスまたは電話機のタイプをツリー階層に表示することができます。</p> <hr/> <p> ヒント デバイスをモニタするには、P.7-13 の「モニタ対象の特定のデバイスの検索」の説明に従って、追加の設定手順を実行する必要があります。</p>
CTI Manager	Monitor > CTI Manager	<p>クラスタ名と CTI タイプ (アプリケーション、デバイス、および回線) をツリー階層に表示します。</p> <p>特定の CTI タイプをモニタするには、次の項の説明に従って、追加の設定手順を実行する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • モニタ対象の CTI アプリケーションの検索 (P.7-17) • モニタ対象の CTI デバイスの検索 (P.7-18) • モニタ対象の CTI 回線の検索 (P.7-19) <p>メニューバーを使用して CTI Manager を選択することはできません。各 Cisco CallManager サーバの 1 つのウィンドウで、開いているデバイス、回線、CTI 接続数をモニタするには、P.7-13 の「デバイスの操作」を参照してください。</p>
Performance	Performance > Open Performance	<p>perfmon カウンタを表示します。</p> <p>perfmon カウンタの使用法の詳細については、P.9-1 の「パフォーマンスモニタリングの設定と使用」を参照してください。</p>

ステップ 2 一部のカテゴリでは、特定のサーバやデバイス タイプを選択してモニタできます。特定のサーバやデバイス タイプを選択してモニタするには、リストされたペインで次の操作のいずれかを実行します。

- CPU and Memory Usage ペイン：特定のサーバの CPU やメモリの使用状況をモニタするには、Host ドロップダウン リスト ボックスからサーバを選択します。
- Disk Usage ペイン：特定のサーバのディスク使用状況をモニタするには、Host ドロップダウン リスト ボックスの Disk Usage からサーバを選択します。
- Critical Services ペイン：特定のサーバの重要なサービスをモニタするには、Host ドロップダウン リスト ボックスの Critical Services からサーバを選択します。
- Gateway Activity ペイン：特定のゲートウェイ タイプのゲートウェイ アクティビティをモニタするには、Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスからゲートウェイ タイプを選択します。
- Trunk Activity ペイン：特定のトランク タイプのトランク アクティビティをモニタするには、Trunk Type ドロップダウン リスト ボックスからトランク タイプを選択します。
- SDL Queue ペイン：特定の SDL キュー タイプの SDL キュー情報をモニタするには、SDL Queue Type ドロップダウン リスト ボックスからタイプを選択します。

追加情報

[P.7-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

デバイスの操作

この項は、次の内容で構成されています。

- モニタ対象の特定のデバイスの検索 (P.7-13)
- 電話機情報の表示 (P.7-14)
- デバイスのプロパティの表示 (P.7-15)
- デバイスとパフォーマンス モニタリング カウンタのポーリング レートの設定 (P.7-16)

モニタ対象の特定のデバイスの検索

次の手順を実行すると、次のデバイス タイプのデータをモニタできます。

- 電話機
- ゲートウェイ デバイス
- H.323 デバイス
- CTI デバイス
- ボイスメール デバイス
- メディア リソース
- ハント リスト
- SIP トランク

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- **Search > Device > <Phone、Gateway、Hunt List などのデバイス タイプ>** の順に選択します。検索基準を入力するための、デバイス選択ウィンドウが表示されます。**ステップ 4** に進みます。
- Quick Launch Channel ペインで、**Device** をクリックしてから **Device Search** アイコンをクリックします。
- **Device > Open Device Search** の順に選択します。

Device Search ウィンドウに、クラスタ名とモニタ可能なすべてのデバイス タイプがリストされたツリー階層が表示されます。



ヒント Device Search または CTI Search ペインを表示したら、デバイス タイプを右クリックし、**CCMAdmin** を選択して Cisco CallManager Administration に移動できます。

ステップ 2 クラスタ内のすべてのデバイスを検索するか、デバイス モデルの完全なリストを表示して選択するには、クラスタ名を右クリックし、**Monitor** を選択します。

ステップ 3 特定のデバイス タイプをモニタするには、ツリー階層からデバイス タイプを右クリックまたはダブルクリックします。



ヒント デバイス タイプを右クリックした場合は、**Monitor** を選択してデバイス選択ウィンドウを表示する必要があります。

ステップ 4 Select device with status ウィンドウで、適切なオプション ボタンをクリックします。

ステップ 5 クリックしたオプション ボタンの横のドロップダウン リスト ボックスで、**Any CallManager** またはデバイス情報を表示する特定の Cisco CallManager サーバを選択します。



ヒント この後のステップでは、< **Back**、**Next** >、**Finish**、または **Cancel** の各ボタンを選択できます。

ステップ 6 **Next**> ボタンをクリックします。

ステップ 7 Search by device model ペインで、適切なオプション ボタンをクリックします。



ヒント **Device Model** を選択した場合は、デバイス情報を表示するデバイス タイプを選択します。

ステップ 8 **Next** をクリックします。

ステップ 9 Search with name ペインで、いずれかのオプション ボタンを選択し、必要に応じて、対応するフィールドに適切な情報を入力します。

ステップ 10 **Next** をクリックします。

ステップ 11 Monitor following attributes ペインで、1 つまたはすべての検索属性をオンにします。

ステップ 12 **Finish** をクリックします。

追加情報

[P.7-23 の「関連項目」](#) を参照してください。

電話機情報の表示

RTMT Device Monitoring ペインに表示されている電話機の情報を見ることができます。ここでは、電話機の情報を表示する方法を説明します。

手順

ステップ 1 RTMT Device Monitoring ペインに電話機を表示するには、[P.7-13 の「モニタ対象の特定のデバイスの検索」](#) を参照します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- 情報を表示する電話機を右クリックし、**Open** を選択します。
- 電話機をクリックし、**Device > Open** の順に選択します。

ステップ 3 Select Device with Status ペインで、適切なオプション ボタンをクリックします。

- ステップ 4** クリックしたオプション ボタンの横のドロップダウン リスト ボックスで、**Any CallManager** またはデバイス情報を表示する特定の Cisco CallManager サーバを選択します。
- ステップ 5** Search By Device Model ペインで、表示する電話プロトコルを選択します。
- ステップ 6** **Any Model** または **Device Model** オプション ボタンをクリックします。Device Model オプション ボタンをクリックした場合、表示する特定の電話機モデルを選択します。
- ステップ 7** **Next** をクリックします。
- ステップ 8** Search With Name ペインで適切なオプション ボタンをクリックし、対応するフィールドに適切な情報を入力します。
- ステップ 9** Monitor following attributes ペインで、1 つまたはすべての検索属性をオンにします。
- ステップ 10** **Finish** をクリックします。

Device Information ウィンドウが表示されます。デバイスについて詳しい情報を表示するには、ウィンドウの左側のペインに表示されるフィールドを選択します。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイスのプロパティの表示

デバイスのプロパティは、RTMT Device Monitoring ペインに表示できます。ここでは、デバイスのプロパティを表示する方法を説明します。

手順

- ステップ 1** RTMT device monitoring ペインにデバイスを表示します。P.7-13 の「[モニタ対象の特定のデバイスの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
- プロパティ情報を表示するデバイスを右クリックし、**Properties** を選択します。
 - プロパティ情報を表示するデバイスをクリックし、**Device > Properties** の順に選択します。
- ステップ 3** デバイスの説明を表示するには、**Description** タブをクリックします。
- ステップ 4** その他のデバイス情報を表示するには、**Other Info** タブをクリックします。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイスとパフォーマンス モニタリング カウンタのポーリング レートの設定

Cisco CallManager は、カウンタ、デバイス、ゲートウェイ ポートをポーリングしてステータス情報を収集します。RTMT monitoring ペインでは、パフォーマンス モニタリング カウンタとデバイスのポーリング間隔を設定します。



(注)

ポーリング レートの頻度を高くすると、Cisco CallManager のパフォーマンスに悪影響を及ぼすことがあります。図形式のパフォーマンス カウンタをモニタする場合、最小ポーリング レートは 5 秒です。表形式のパフォーマンス カウンタをモニタする場合、最小レートは 1 秒です。デフォルト値はいずれも 10 秒です。

デバイスのデフォルト値は 10 秒です。

ポーリング レートを更新するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** RTMT monitoring ペインに、デバイスまたはパフォーマンス モニタリング カウンタを表示します。
- ステップ 2** デバイスをクリックし、**Edit > Polling Rate** の順に選択します。
- ステップ 3** Polling Interval ペインで、使用する時間間隔を指定します。
- ステップ 4** **OK** をクリックします。

追加情報

[P.7-23 の「関連項目」](#) を参照してください。

CTI アプリケーション、デバイス、および回線の操作

この項は、次の内容で構成されています。

- [CTI Manager 情報の表示 \(P.7-17\)](#)
- [モニタ対象の CTI アプリケーションの検索 \(P.7-17\)](#)
- [モニタ対象の CTI デバイスの検索 \(P.7-18\)](#)
- [モニタ対象の CTI 回線の検索 \(P.7-19\)](#)
- [アプリケーション情報の表示 \(P.7-20\)](#)

CTI Manager 情報の表示

クラスタ内の各 Cisco CallManager サーバについて、開かれているデバイス、回線、CTI 接続の図を表示するには、Quick Launch Channel で **CTI** をクリックし、**CTI Manager** アイコンをクリックします。

追加情報

[P.7-23](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

モニタ対象の CTI アプリケーションの検索

モニタ対象の特定の CTI アプリケーションを検索するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- **Search > CTI > CTI Applications** の順に選択します。検索基準を入力できる選択ウィンドウが表示されます。 [ステップ 3](#) に進みます。
- Quick Launch Channel ペインで、**CTI** をクリックしてから **CTI Search** アイコンをクリックします。CTI 検索ウィンドウに、クラスタ名と、モニタ可能なすべての CTI タイプがリストされたツリー階層が表示されます。

ステップ 2 ツリー階層で、**Applications** を右クリックまたはダブルクリックします。



ヒント オプションを右クリックした場合は、**Monitor** を選択します。

ステップ 3 CTI Manager ドロップダウン リスト ボックスから、モニタの対象とする CTI Manager を選択します。

ステップ 4 Application Status ドロップダウン リストボックスで、アプリケーション ステータスを選択します。

ステップ 5 **Next** をクリックします。

ステップ 6 Application Pattern ペインで、適切なオプション ボタンをクリックします。

ステップ 7 クリックしたオプション ボタンのフィールドに情報を入力します。たとえば、IP Subnet オプション ボタンをクリックした場合は、フィールドに IP アドレスとサブネット マスクを入力します。

ステップ 8 **Next** をクリックします。

ステップ 9 **Monitor following attributes** ウィンドウで、モニタする属性に対応した 1 つまたはすべてのチェックボックスをオンにします。

ステップ 10 **Finish** をクリックします。

Application Monitoring ペインに、選択した情報が表示されます。

追加情報

P.7-23 の「関連項目」を参照してください。

モニタ対象の CTI デバイスの検索

モニタ対象の特定の CTI デバイスを検索するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- **Monitor > CTI > CTI Devices** の順に選択します。検索基準を入力できる選択ウィンドウが表示されます。**ステップ 3** に進みます。
- **Quick Launch Channel** ペインで、**CTI** をクリックしてから **CTI Search** アイコンをクリックします。CTI 検索ウィンドウに、クラスタ名と、モニタ可能なすべての CTI タイプがリストされたツリー階層が表示されます。

ステップ 2 ツリー階層で、**Devices** を右クリックまたはダブルクリックします。



ヒント オプションを右クリックした場合は、**Monitor** を選択します。

ステップ 3 CTI Manager ドロップダウン リスト ボックスから、モニタの対象とする CTI Manager を選択します。

ステップ 4 Devices Status ドロップダウン リストボックスで、デバイス ステータスを選択します。

ステップ 5 Devices ペインで、適切なオプション ボタンをクリックします。



ヒント **Device Name** を選択した場合は、フィールドにデバイス名を入力します。

ステップ 6 **Next** をクリックします。

ステップ 7 Application Pattern ウィンドウで、適切なオプション ボタンをクリックします。

ステップ 8 クリックしたオプション ボタンのフィールドに情報を入力します。たとえば、**IP Subnet** をクリックした場合は、フィールドに IP アドレスとサブネット マスクを入力します。

ステップ 9 **Next** をクリックします。

ステップ 10 **Monitor following attributes** ウィンドウで、モニタする属性に対応した 1 つまたはすべてのチェックボックスをオンにします。

ステップ 11 **Finish** をクリックします。

Device Monitoring ペインに、選択した情報が表示されます。

追加情報

P.7-23 の「関連項目」を参照してください。

モニタ対象の CTI 回線の検索

モニタ対象の特定の CTI 回線を検索するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- **Monitor > CTI > CTI Lines** の順に選択します。検索基準を入力できる選択ウィンドウが表示されます。**ステップ 3** に進みます。
- Quick Launch Channel ペインで、**CTI** をクリックしてから **CTI Search** アイコンをクリックします。CTI 検索ウィンドウに、クラスタ名と、モニタ可能なすべての CTI タイプがリストされたツリー階層が表示されます。

ステップ 2 ツリー階層で、**Lines** を右クリックまたはダブルクリックします。



ヒント オプションを右クリックした場合は、**Monitor** を選択します。

ステップ 3 **CTI Manager & Status** ドロップダウン リスト ボックスから、モニタの対象とする **CTI Manager** を選択します。

ステップ 4 **Lines Status** ドロップダウン リストボックスで、ステータスを選択します。

ステップ 5 **Devices** ペインで、適切なオプション ボタンをクリックします。



ヒント **Device Name** を選択した場合は、フィールドにデバイス名を入力します。

ステップ 6 **Lines** ペインで、適切なオプション ボタンをクリックします。



(注) **Directory Number** を選択した場合は、フィールドに電話番号を入力します。

ステップ 7 **Next** をクリックします。

ステップ 8 Application Pattern ペインで、適切なオプション ボタンをクリックします。

ステップ 9 クリックしたオプション ボタンのフィールドに情報を入力します。たとえば、IP Subnet をクリックした場合は、フィールドに IP アドレスとサブネット マスクを入力します。

ステップ 10 **Next** をクリックします。

ステップ 11 Monitor following attributes ウィンドウで、モニタする属性に対応した 1 つまたはすべてのチェック ボックスをオンにします。

ステップ 12 **Finish** をクリックします。

Lines Monitoring ペインに、選択した情報が表示されます。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション情報の表示

Cisco IP Phone、CTI ポート、CTI ルート ポイントなどの選択されたデバイスに対するアプリケーション情報を表示できます。ここでは、アプリケーション情報を表示する方法を説明します。

手順

ステップ 1 P.7-18 の「[モニタ対象の CTI デバイスの検索](#)」の説明に従って、RTMT monitoring ペインにデバイスを表示します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- アプリケーション情報を表示するデバイス（たとえば、CTI）を右クリックし、**App Info** を選択します。
- アプリケーション情報を表示するデバイスをクリックし、**Device > App Info** の順に選択します。

Application Information ウィンドウに、CTI マネージャのノード名、アプリケーション ID、ユーザ ID、アプリケーション IP アドレス、アプリケーションの状況、アプリケーションのタイム スタンプ、デバイスのタイム スタンプ、デバイス名、および CTI デバイスのオープン状況が表示されます。

ステップ 3 表示された情報を更新するには、**Refresh** をクリックします。**OK** をクリックして、ウィンドウを閉じます。

追加情報

P.7-23 の「[関連項目](#)」を参照してください。

カテゴリの操作

カテゴリを使用すると、パフォーマンス モニタリング カウンタとデバイスをモニタできます。たとえば、デフォルト カテゴリの **CallManager** では、6 つのパフォーマンス モニタリング カウンタをグラフ形式でモニタできます。それ以上のカウンタを使用する場合は、新しいカテゴリを設定して、データを表形式で表示できます。

電話やゲートウェイなどのデバイスに関するさまざまな検索を実行する場合、検索ごとにカテゴリを作成し、結果をカテゴリに保存することができます。

カテゴリの追加

カテゴリを追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Performance Monitoring または Devices ツリー階層を表示します。
 - ステップ 2** **Edit > Add New Category** の順に選択します。
 - ステップ 3** カテゴリ名を入力し、**OK** をクリックします。

ウィンドウの下部に、カテゴリのタブが表示されます。

追加情報

- [P.7-23](#) の「**関連項目**」を参照してください。

カテゴリ名の変更

カテゴリ名を変更するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの操作を実行します。
 - 名前を変更するカテゴリのタブを右クリックし、**Rename Category** を選択します。
 - 名前を変更するカテゴリのタブをクリックし、**Edit > Rename Category** の順に選択します。
 - ステップ 2** 新しいカテゴリ名を入力し、**OK** をクリックします。

ウィンドウの下部に、変更後のカテゴリ名が表示されます。

追加情報

- [P.7-23](#) の「**関連項目**」を参照してください。

カテゴリの削除

カテゴリを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 削除するカテゴリのタブを右クリックし、**Remove Category** を選択します。
- 削除するカテゴリのタブをクリックし、**Edit > Remove Category** の順に選択します。

追加情報

[P.7-23 の「関連項目」](#) を参照してください。

参考情報

- [RTMT でのアラート設定 \(P.8-1\)](#)
- [パフォーマンス モニタリングの設定と使用 \(P.9-1\)](#)
- [RTMT のトレース収集とログ集中管理 \(P.10-1\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』の「Real-Time Monitoring Tool」
- 『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』の「アラート」
- 『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』の「パフォーマンス オブジェクトとパフォーマンス カウンタ」

追加情報

[P.7-23 の「関連項目」](#) を参照してください。

関連項目

- [カテゴリの追加 \(P.7-21\)](#)
- [カテゴリ名の変更 \(P.7-21\)](#)
- [カテゴリの削除 \(P.7-22\)](#)
- [CTI Manager 情報の表示 \(P.7-17\)](#)
- [モニタ対象の CTI アプリケーションの検索 \(P.7-17\)](#)
- [モニタ対象の CTI デバイスの検索 \(P.7-18\)](#)
- [モニタ対象の CTI 回線の検索 \(P.7-19\)](#)
- [パフォーマンス モニタリングの設定と使用 \(P.9-1\)](#)
- [デバイスの操作 \(P.7-13\)](#)
- [デバイスのプロパティの表示 \(P.7-15\)](#)
- [モニタ対象の特定のデバイスの検索 \(P.7-13\)](#)
- [電話機情報の表示 \(P.7-14\)](#)
- [デバイスとパフォーマンス モニタリング カウンタのポーリング レートの設定 \(P.7-16\)](#)
- [デフォルトの構成プロファイルの使用 \(P.7-6\)](#)
- [プロファイルの復元 \(P.7-7\)](#)
- [デフォルトの構成プロファイルの使用 \(P.7-6\)](#)
- [構成プロファイルの削除 \(P.7-8\)](#)
- [構成プロファイルの追加 \(P.7-6\)](#)
- [構成プロファイルの操作 \(P.7-6\)](#)
- [事前定義オブジェクトの操作 \(P.7-9\)](#)
- [RTMT でのアラート設定 \(P.8-1\)](#)
- [パフォーマンス モニタリングの設定と使用 \(P.9-1\)](#)
- [RTMT SysLog Viewer の使用 \(P.11-1\)](#)
- [Real-Time Monitoring Tool \(RTMT\) のインストール \(P.7-2\)](#)
- [RTMT のアンインストール \(P.7-4\)](#)
- [RTMT のアップグレード \(P.7-3\)](#)
- [RTMT の使用 \(P.7-4\)](#)

